

国際ロータリー第2620地区
静岡第5グループ



POWER HAMAMATSU
ROTARY CLUB
JAPAN

週報 パワー浜松ロータリークラブ

新しい流れを、知恵を集めて

RI 会長 シェカール・メータ/第 2620 地区ガバナー 小林聡一郎 /会長 高貝 亮 /幹事 山下俊彦
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松内 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立：2002 年 10 月 22 日 認証伝達式：2003 年 4 月 29 日 スポンサークラブ：浜松中 R C



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



第897回例会6月14日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラクトシティホテル浜松 3 階 チェルシーの間
- 司会：安間利広 寺田洋平
- 点鐘：高貝 亮
- 週報：中野雄介
- ロータリーソング：「我等の生業」（※音楽のみ）
- ゲスト：米山記念奨学生 陳俊達さん

出席報告/スマイル報告

会員数 74 名（内出席免除会員 3 名）
出席数 63 名 出席率 87.50%

スマイル提出者氏名掲載

- ・伊藤勝人さん ・社会奉仕部会
- ・土屋公良さん ・宇佐美英尚さん
- ・坂井光藏さん

会長挨拶



おはようございます。先週の土曜日、浜松西ロータリークラブの45周年記念式典があり山下幹事と行ってまいりました。

コロナの状況が読めない中での開催ということで、私たちの20周年同様にだいぶ苦労されたようです。15時30分からの式典に続いて、記念の講演会、祝宴と続く1日でした。記念公演では、薩摩焼の陶芸家、沈寿官15代がお話されました。

日本の焼き物の多くは、秀吉の朝鮮出兵の際に現地から連れてこられた陶工がもたらした技術でつくられ、萩焼、鍋島焼これはその後の伊万里焼、有田焼ですね、そして薩摩焼などいずれも朝鮮人陶工が活躍しました。

沈さんの初代沈当吉さんは、1598年、慶長の役の際に連れてこられたそうです。薩摩藩では、他の藩と違って、朝鮮の風俗や言葉を守るようにいわれ、嶋津家に保護されて発展を遂げたそうです。朝鮮から伝わった技術は、白い陶器と釉薬に特徴があり、白いキャンパスの上に美しい彩色をして、透明の釉薬をかけて焼かれた品のよい焼き物です。

薩摩は日本の南端でしたが、江戸時代には琉球を属国とし、中国や朝鮮、東南アジアの国々と独自の貿易を行っていて、国際的な藩だったといえます。

沈さんのお父さん、14代沈寿官さんは、司馬遼太郎の小説、「故郷忘じがたく候」のモデルになった方で、司馬さんが現代の人をモデルにして書いた小説では唯一のものだということです。

沈寿官さんは、父の跡を継いで沈寿官を襲名することにずいぶん悩まれたといえます。

浜松西ロータリークラブは、ブラジル人学校ムンド・デ・アレグリア校への支援など多文化共生の取り組みにも積極的なクラブですが、周年事業にあたりこうしたクラブの姿勢とマッチした意義ある講演事業を開催されたことに改めて感銘を受けましたので、ご紹介させていただいた次第です。

幹事報告

薩摩焼宗家第15代沈寿官さんの作品展が10月に遠鉄百貨店で開催されますので、興味あるかたはぜひご覧ください。なお浜松西 RC の渡辺会長は先日の記念式典で沈寿官さんの工房を訪ねる旅を企画したいとおっしゃっていましたので、こちらも企画のご案内がございましたらご紹介いたします。

45周年記念例会で同席いたしましたハーモニーロータリークラブの井口幹事から、教えていただいたのですがハーモニーRCでは毎年ロータリーメンバーが参加して甲子園で野球大会に参加しているそうです。

全国から50クラブが集まり、2~3インングの試合を行っているそうです。憧れの甲子園で野球大会。

ロータリーメンバーの特権だそうですので、次年度以降企画のアイデアにいかがでしょうか。

ガバナー月信とロータリーの友6月号が届きました。

レターケースへ配布させていただきましたので、各自お持ち帰りください。

米山記念奨学会よりわがロータリークラブに「感謝の盾」が届いておりますのでご紹介します。

こちらは20周年時の寄付への感謝の意が込められております。

盾は事務局に保存させていただきます。



パワー浜松RC卓話

2022年6月14日：浜松



右か左どちらか

2022年09月14日：洪松

-

- ・テレビ 1兆8393億円
- ・新聞 3815億円
- ・雑誌 1224億円
- ・ラジオ 1106億円
- ・WEB 2兆7052億円

商品・サービスを
伝えたい。
お客さまを集めたい。

-

戦後の高度成長期
企業の設備投資が急増し、融資以外の金融手法の必要性



**「新しい価値を創造する」
(挑戦)**